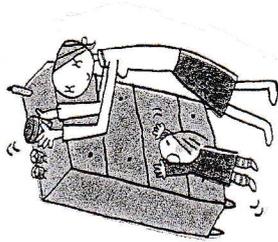


子どもの事故に気をつけて！！

これから、夏に向かっていろいろな楽しいイベントをむかえる時期になってきます。そこで特に気にかけておきたいことは不慮の事故です。家の内や外、私たちの生活空間は大人の目線で作られています。小さな赤ちゃんでも大人の予想を超えた動きをします。幼児期となると体も大きくなり活発に動くので周囲にある危険を自分では察知できません。事故は本来安全であるべき家庭内でも多く起きています。子どもの目線にたって生活環境を見直しましょう。大人は事故の原因や起こりやすい場所を知り、子どもの発達段階に応じた予防策をたて、安全な環境を整えることが必要ですね。



■転倒・転落

ハイハイが始まるとどこにでも移動します。階段や段差のあるところには必ず柵をつけましょう。

台によじのぼりベランダや窓から転落する事故が起きています。ベランダ、窓の周囲の家具、洗濯機、箱など、踏み台になるものは絶対に置かないこと。

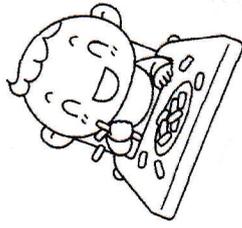
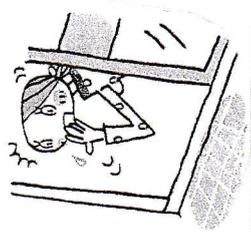
外出時にベビーカーを使用する際は、必ずベルトを締め、重い荷物を吊り下げるとは危険ですからやめましょう。ハイチェアやジョブピングカーを使うときも、ベルトなどの安全対策が必要です。

■溺水

乳幼児の溺死の多くは、家の浴そう・便器・洗濯機で発生します。子どもは10cmの水位でも溺れることがあります。浴そうの残り湯は抜き、使い終わった洗面器・バケツの水もすべて捨てる習慣をつけましょう。また、お風呂場やトイレ、洗濯機のある部屋には子どもが一人で入れないよう、カギをかけるなどの工夫が必要です。

入浴時、親が髪を洗っているときに、子どもが溺れてしまうことがあります。おもちゃを用意するなど、洗い場で待たせられる工夫をしましょう。

プールや海、川で遊ぶようになると、水の事故も増えてきます。水のある場所では、大人は必ずそばについて目を離さないようにしてください。ボート遊びではライフジャケットを着用しましょう。



■誤飲・窒息

小さな乳幼児の場合、やわらかい布団で鼻や口をふさがれる恐れがあります。かけぶとん・タオルケットは顔にかからないようにし、敷きぶとんは固めのものを選びます。寝る際はあおむけに寝かせるようにしましょう。また、顔のまわりにぬいぐるみやタオルを置かないようにしましょう。幼児期は、ビニール袋を頭にかぶったり、ひもが首にからまって窒息する危険もあります。子どもの手の届くところにビニール袋やひもを置いてはいけません。

また、子どもは手に触れるものは何でも口に入れます。タバコ・電池・硬貨・医薬品・ピアスなど、直径39mm以下の小物は口に入ると大変危険です。小物は手の届かないところに片づけましょう。また、食品でもピーナッツなどの豆類やアメはのどにつまりやすい危険です。3歳までは食べさせないようにしましょう。